

村民憲章

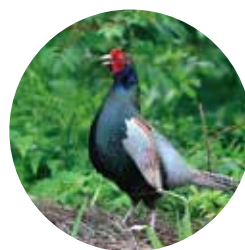
- 一.自然に親しみ、環境を整え、美しく住みよい村をつくりましょう。
- 一.教養を高め、伝統を重んじ、文化の香り高い村をつくりましょう。
- 一.健康で働き、きまりを守り、心のふれあう福祉の村をつくりましょう。
- 一.資源を活かし、創意と努力を重ね、豊かな村をつくりましょう。
- 一.協同と連携の意識を深め、希望と活力にみちた村をつくりましょう。



村の花／やまゆり



村の木／しらかば



村の鳥／きじ

鮫川村

鮫川村役場 村づくり推進室

〒963-8401 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿39番地5

TEL.0247-57-6332

<https://www.vill.samegawa.fukushima.jp>

H P



Instagram



Facebook



さめがわむら 鮫川村

OUTLINE OF SAMEGAWA VILLAGE

鮫川村の
村勢要覧



“まめで達者な村づくり”
村民がいきいき暮らせる村を目指して

ひとりひとりの「つながり」を大切にした村づくり。

自然環境に恵まれ、里山の生活文化が残り、人々の距離感が近い鮫川村。
ここは等身大で持続可能なライフスタイル「まめな暮らし」を追求する村です。

まめな暮らしとは、世代を超えた文化継承、自然との共生、地域の和など、
村内外におよぶ細やかな「つながり」を大切にした生き方のこと。

この村では人と人、人と自然、人と現代社会といった多彩なつながりを生かし、
未来へつながるようなコミュニティづくりが進められています。



村のあゆみ

鮫川村には壇ノ岡遺跡をはじめ、縄文時代の遺跡、住居跡、出土品が数多くあり、当時の集落や生活の様子をうかがうことができます。古代、この地域は白河郡に属し、その後石川荘の成立によって、中世にはこれに属しました。鮫川村の地に根を下ろした石川一族の赤坂氏は、14～15世紀ごろに転じて白川氏の勢力下に入りますが、16世紀半ばには常陸国から白川領に伸びてきた佐竹氏の

麾下に属し、関ヶ原戦後の佐竹氏の秋田転封に従って赤坂の地を去りました。近世の鮫川村地域は白川郡に編入され、幕領、棚倉藩領などを経て幕末・明治維新を迎えました。明治22年の市制町村制施行に伴い、赤坂中野・赤坂東野・赤坂西野・西山・石井草・富田・渡瀬の7村が合併して誕生した鮫川村は、135年にわたり、村名と村域が受けつがれています。

村長あいさつ

人が訪れたくなる鮫川村

本村は福島県の東側を縦断する阿武隈高地の南部に位置する中山間地域です。畜産をはじめとする農林業が盛んで、昔ながらの里山景観を村民全員で守り続けている自然豊かな村でもあります。全国的に少子化と高齢化が進み、人口が減り続けていることは、鮫川村も例外ではありません。村にいる人をこれ以上減らさない、村に関わる人を少しでも増やしていくことが重要であり、そのためには“鮫川村に来てくれる人を増やす”取り組みが急務です。村の足元にふと目をやると魅力ある資源がたくさんあります。例えば湯の田温泉です。温泉施設のさぎり荘では、村内で伐採された木を燃料にした薪ボイラーで温泉を加熱しており、その泉質の良さから村内外多くの人が訪れています。温泉周辺の紅葉も魅力的でその美しさは素晴らしいものがあります。強滝や



江竜田の滝とあわせて多くの人に楽しんでいただけるよう一層のPRをしていきます。また、使われなくなる農地を減らすために大豆の耕作を奨励し、収穫された大豆は直売所「手・まめ・館」で味噌や納豆、きな粉、豆腐に加工販売されています。手・まめ・館に並ぶ農作物の多くには「ゆうきの郷土」で作られた良質な有機たい肥が使用されており、村民の健康を守っています。そして村の発展には「人を育てる」ことが大切です。世代を超えた人材育成で村への愛着が深まって欲しいと考えています。今住んでいる人たちが鮫川村を誇りに思うことができれば、外から見たときにも魅力的な村に映るはずですよ。一人ひとりが違う考え方なのは当たり前のことですが「村を良くしたい」という思いは同じだと信じています。同じ方向を向いて村民一丸となって進んでいきましょう。

鮫川村長 宗田 雅之

村民の歌

作詞：石田卯子八 作曲：岡部富士夫

阿武隈の山なみつづくみどり立つ村
白樺はかぜにそよぎて
さわやかな人の心よ
ああここにひらく
かぎりなき希望世代を継ぎて
鮫川村をわれらおこさん

遥かなる起き伏す峯のうろわしき郷
山ゆりはさ霧にぬれて
香ぐわしき人の情よ
ああここにぎづく
もろ人むつみてたつき豊かに
鮫川村をわれらたたえん

村章

鮫川村の『さ』の字を图案化したもので、村民の「融和」と「団結」を表し、明るく豊かな村づくりに着実に進む『鮫川村』を象徴したものです。



昭和47年11月21日制定

鯨川村の大豆

①大豆の栽培推奨(平成16年度から)

- 60歳以上の高齢者に種子代を補助(令和元年度から年齢制限廃止)
- 700円/kgを300円/kg(令和6年度～)で配布

②栽培者研修会を開催

- なるべく化学肥料、農薬を使わない栽培法を普及
- 全員が栽培記録を提出

③収穫機および、脱粒機を村で導入し収穫のお手伝い

- 色選別、粒選別も村で実施しており高品質の大豆を確保しています

④価格補償で全量買い取り

- 収穫の喜びが明日への(再生産の)意欲
- 汗に報いる価格補償
- 令和6年度の買入れ価格
大粒:600円/kg 中粒:500円/kg 小粒・紫斑:400円/kg ぐず:40円/kg



鯨川村の基盤 達者の味噌

鯨川村の達者の味噌は、「石田味噌」と言われる、長年村で受け継がれてきた製法で作られています。「石田味噌」は昭和30年に鯨川村長に当選した石田卯子八氏が、大正14年に鯨川青年農業技師として赴任してきてから、しょうゆの自家醸造のほか、味噌づくりには、糴を調合熟成させる手法を奨めたのが発端です。石田卯子八氏は、村長に就任してわずか2年、昭和32年に納税完納を実現させており、昭和57

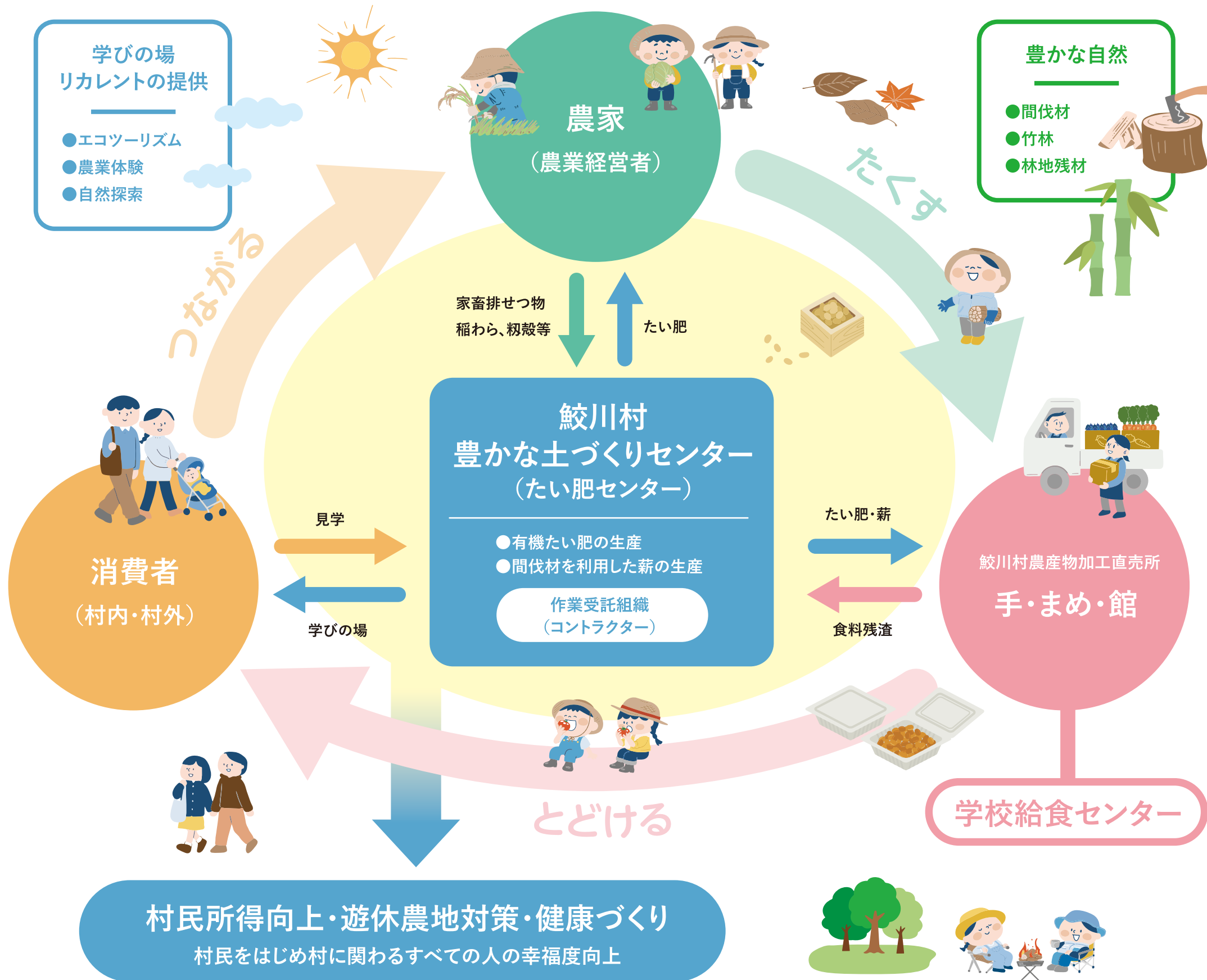
年には村民の歌、昭和62年には「村民憲章」を制定しました。昭和62年4月までの8期32年にわたり村長を務め、名誉村民第1号に推戴されました。一般的に市販の味噌は、大豆と麴の割合が1:1を基本としていますが、村の「石田味噌」は、大豆1に対して麴を1.5の量で仕込んでいます。また、味噌の塩分濃度は健康を考え一般より低い10%を目標として製造しています。

地域循環システムの確立

平成20年(2008年)～

バイオマスビレッジ構想+オーガニックビレッジ構想+循環型農業

平成20年から鯨川村では基幹産業である農業を通じた地域活性化、地域資源活用や循環型社会形成、自然環境保護を進めながら村の発展を図るバイオマスビレッジ構想を推進しています。これは有機の里づくりを目指すオーガニックビレッジ構想にも関わるほか、循環型農業の実現にもつながる取り組みです。こういった施策による地域循環システムの確立は、村づくりの大きな柱となっています。



オーガニックビレッジの目標

令和6年～

有機農業を通じた
村民の健康増進と幸福度の向上

鯨川村は、先人から受け継がれた美しい里山景観を有する農村です。里山は農業の営みにより守られてきました。そして、基幹産業である農業を中心に産業の振興を図ってきました。農村では、農業の振興こそ村の振興につながります。鯨川村には、農業の基本である「土づくり」に必要な「有機たい肥」があります。鯨川、久慈川、阿武隈川の源流であり生活雑排水に汚染されていない「水」があります。そして、平成20年度から本格的に始まった「まめで達者な村づくり」を実践し、手・まめ・館を6次化の拠点として、できる限り「農業・化学肥料に頼らない人と環境にやさしい農業」を実践してきました。今ある有機農業の基盤を活かし、令和6年度中を目標に村オーガニックビレッジ構想を立ち上げ、持続可能な村づくりと有機農業を通じた村民の健康増進と幸福度の向上を図ります。

鯨川村の方向性

1 オーガニック給食

学校給食へ有機栽培、特別栽培農産物の提供。



2 食と農の教育

小中学校の教育課程にオーガニック給食、有機農業を学ぶ授業を実施。村ふるさとキャリア教育の一環で「農業課程」を設置。

3 有機栽培の拡大

手・まめ・館生産者を軸に有機栽培農産物の生産を図る。学校給食に食材を提供する生産者について、有機栽培に移行する仕組みづくりを推進。

4 有機農産物の6次化、加工販売

市場動向を注視し、ニーズにあった商品を開発。

5 有機農業推進協議会を設立

生産者が定期的に有機農業を学ぶ機会をつくる。

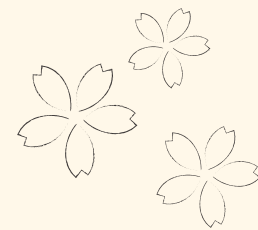


6 有機たい肥「ゆうきくん」の有機資材JAS認証+たい肥のペレット化を検討

ペレット機械の導入。

7 J-クレジットの活用

企業にクレジットを販売、バイオ炭の取り組みを検討。



天狗橋

天狗が架けたと言い伝えられる、長さ7.9m、幅4mの大きな石橋。イヌブナやアカンデが繁る周辺には夏でも涼気が漂います。カタクリやニリンソウが咲く春も魅力的。
●鯨川村大字赤坂東野字蔵ノ草地内

見 自然

さめがわさんぽ

美味しい食に楽しいイベント、そして貴重な文化財。
鯨川村は一年を通し、さまざまな見どころに恵まれています。
豊かな自然とまめな仕事が、多彩な魅力を生むのです。

手・まめ・館

村内でとれた新鮮な野菜や特産品などを販売する直売所、地元食材を使用した食堂、大豆加工品を製造する加工所で構成された施設です。
●鯨川村赤坂中野字巡ヶ作116
☎0247-49-2556



訪 施設



村民(みんな)の店 すまいる

食料品や日用品などを取りそろえた店舗。買い物弱者支援として、地域への宅配や移動販売も行っています。店内のオープンスペースは、誰でも気軽に利用可能。
●鯨川村大字赤坂中野字新宿64-1
☎0247-57-6901



館山公園のヤマユリ

村の中心部にある館山公園では季節ごとに多彩な花が咲き誇ります。中でも夏のヤマユリは、白く美しい姿が見事。
●鯨川村大字赤坂中野字館山地内

火打石のしだれ桜

樹齢400年を超える鯨川村を代表する桜です。樹高は20mあり、笠のように広がる枝ぶりの良さが特徴。高台にあることから開花時の景観は圧巻です。
●鯨川村大字赤坂西野字火打石地内



江竜田の滝

久慈川支流の渡瀬川と大戸中川が合流する溪谷にある、大小さまざまな滝の総称です。清冽な流れが鮮やかに彩られ、新緑や紅葉の季節は必見。
●鯨川村大字渡瀬字前ノ沢地内



真坂農村公園

安産や五穀豊穡の守り神として、高さ5m、幅6mの「取上石」が奉られています。橋の架かる池や小さな清流が広がる公園です。
●鯨川村大字赤坂中野字取上地内



お食事処・温泉旅館「結び」

お食事処・温泉旅館「結び」は、ラーメンが食べられる旅館施設です。「結び」という店名には「人と人との縁を大事にしたい」という思いが込められています。地元食材を使ったこだわりの一品を楽しむことができます。
●鯨川村大字赤坂東野字広畑194 ☎0247-57-8677



鹿角平天文台

鹿角平観光牧場内にあり、開けた丘の上にあることから星の観測には最適な環境となっています。利用する際は事前予約が必要で、インストラクターと一緒に無料で星空観察が楽しめます。
●鯨川村大字青生野字世々麦307 鹿角平観光牧場内
☎0247-49-3113(鯨川村役場)



強滝と甌穴群

鯨川村の観光名所である強滝は、国道349号沿いに約2km広がる急流で、岩と水の美しい造形美を披露しています。川の東側には整備された遊歩道があり、上流から下流まで約1.3kmにわたり、30ヵ所以上の甌穴が見られます。強滝甌穴群は村の指定文化財であり、何万年もの時間をかけて自然が創り出した芸術的な大彫刻です。遊歩道の橋付近には30cm以上の大きな甌穴が複数あり、訪れる人々に自然の美を楽しむ機会を提供しています。
●鯨川村大字赤坂東野字前田～大字西山字強滝地内

湯の田温泉 村民保養施設「さざり荘」

村の日帰り入浴施設。間伐材などを活用した薪ボイラーにより加温。化石燃料の消費をおさえた環境にやさしい施設です。(アルカリ性単純泉、加水無)
●鯨川村大字赤坂東野字広畑199-2
☎0247-49-2205





えごまの花

えごま

香りと栄養価が高い鮫川村産のエゴマ。その良質な実を100%使用したえごま油は味が濃く、ドレッシングや料理の隠し味にぴったりな品です。また鮫川村産の唐辛子と合わせた、えごま唐辛子、えごまらー油は、中華料理や麺類などにおすすめです。



えごまたっぷり 無添加ドレッシング

鮫川村産のエゴマをふんだんに使用した、あっさり風味のドレッシングです。2012年には、ふくしまおいしい大賞の優秀賞に輝きました。
(特産さがわ 合同会社)



半生うどん 一歩

柔らかさとモチモチ食感が特徴のうどん。温めて滑らかなのどごしを楽しむもよし。冷やしてコシを楽しむもよし。
(社会福祉法人鮫川福祉会 鮫川たんぼの家)



鮫川プライド

鮫川村の魅力を発信する「さめがわプライド」。オーガニック野菜や牛乳、バター、お米、卵、いちごなど、ぜひ味わってみてください。



鮫川村の納豆と豆腐

鮫川村産大豆を100%使用。素材の良さを生かした納豆と豆腐です。お土産にどうぞ。



大豆の花

食 味覚



渡瀬村救荒修祭記碑(村指定)

天明3年(1783年)、渡瀬村は高冷地のため長雨の被害を受けて、稲は稔らず餓死者の屍が野にあふれました。村外に出て行く者も多く、150余りあった戸数が5分の1まで減少し、田畑は著しく荒廃してしまいました。しかし、村民は力を合わせて立ち上がり、荒廃した農地の復興に努力した甲斐があって、寛政元年(1789年)は大豊作となったため、餓死者の骨を埋め僧侶を頼んで供養しました。また、天災は予期しないときに来るので、人々は平素から備えなければならぬと後世の人々を戒めています。
●鮫川村大字渡瀬字木之根88-2



吽形

熊野神社飛翔獅子型狛犬(村指定)

熊野神社の狛犬は、石工小松寅吉(石川町生まれ、浅川町福貴作1844~1915)が明治31年11月に造立した作品です。本作品は、「飛翔獅子」と呼ばれる構図で、一般的な蹲踞型の狛犬とは違い、全国にもめずらしい独創的なスタイルで、雲に乗り後ろ脚を大空に蹴り上げた躍動感あふれる狛犬です。その卓越した彫刻技術から全国から高い評価を得ています。この高度な技術と独創性は、旧高遠藩(現長野県伊那市)の高遠石工の系譜を引く、師匠小松利平から受け継がれています。
●鮫川村大字赤坂西野字名下385

阿形



伝 文化財



富田薬師堂(村指定) 木造薬師如来立像(県重文) 木造金剛力士像(県重文)

薬師堂は、いつの時代に建築されたのか不明ですが、寛文8年(1668年)に屋根を葺き替えた際に棚倉城主内藤豊前守が寄進した棟札が残っているため、これ以前の建築であると思われます。また、堂内には、県指定重要文化財の木造薬師如来立像と木造金剛力士像が安置されています。
●鮫川村大字富田字彦次郎210

赤坂家長屋門(村指定)

長屋門は、代々渡瀬村の名主を務め、渡瀬村救荒修祭記碑を建てた赤坂氏によって建てられたものです。いつの時代に建てられたのかは不明ですが、観音寺修復のときの棟札が同家に残っており、そのお札に貞享3年(1686年)と記されていることなどから、それ以前に建てられたものであると推測されます。渡瀬村救荒修祭記碑もかつてはこの屋敷内にありましたが、昭和11年2月に渡瀬区に寄贈されました。
●鮫川村大字渡瀬字木之根60



鮫川花火大会

開催時期:8月15日
約1,000発の花火を間近で楽しめる、夏の風物詩です。当日は打ち上げ花火のほか、太鼓の演奏やサマーコンサートなども行われます。山あいに響く爆音と夜空を染める炎は大迫力!



鮫川ふるさと 春まつり

開催時期:5月上旬
毎年ゴールデンウィークに開催される恒例行事。村内のさまざまな事業所や団体が食べ物の販売、体験アトラクションなど多彩なイベントを展開します。



鯨川村で暮らす

Samegawa Life

自然が多くて夏も過ごしやすい鯨川村では、のびのびした暮らしや子育てが実現できるはず。村内では若い就農者も活躍中。新たな村民をお待ちしています。

くわしくはコチラ！



子育て

- 学校給食無償化
- さめっこすくすく祝い金
- 赤ちゃん絵本贈呈事業
(はじめての絵本プレゼント)
- こども医療費助成
- 保育料第三子から無料
- 妊産婦医療費助成
- 乳幼児紙おむつ給付
- 子育て応援祝金

やまゆり保育室・乳児室
月に1度開催される
子育てに関する
相談・支援・交流の場
※一時保育も実施



教育

- 高校生通学支援金
- GIGAスクール(タブレット端末の配布)
- スクールバスの運行
- 外国語指導助手の配置
- ふるさとキャリア教育の実施
- 英検・漢検・数検の受験料支援



びっくり

- 世界一高い!?大豆の買取額
- 満天の星★鹿角平観光牧場
- 川に鯨??鯨池伝説



はたらく

- 起業／創業支援
- 新規就農支援



仕事を探す

- ハローワーク白河
- ふくしま生活・就職応援センター



住まい

- お得な分譲地(20年住んで土地代無料)
- 戸建て中古住宅取得補助事業(移住者)
- 若年層定住促進補助事業(定住者)
- 浄化槽設置整備事業補助金

鯨川村宅地分譲地 販売促進事業補助金

村内の請負業者に
施工依頼で**100万円**を補助
義務教育修了前
のお子さんがある場合
1人につき**10万円**を
加算して補助



鯨川村の沿革

Samegawa Village History

1889	明治22年4月	● 郡区町村編成法により、従来の7か村を合併し、「鯨川村」と改称する
1955	昭和30年2月	● 国勢調査：人口8,256人、農業センサス：農家数938戸
1972	昭和47年1月	● 「渡瀬獅子舞」を村指定無形民俗文化財に指定
1982	昭和57年4月	● 鯨川・渡瀬保育所に幼児送迎バス運行開始
1986	昭和61年9月	● 鯨川村ふる里振興協議会(村・農協・商工会)設立
1988	昭和63年10月	● 鹿角平観光牧場オープン(「第1回高原の鯨川うまいもの祭り」開催)
1989	平成元年11月	● 村100年史発行
1994	平成6年3月	● JRバス廃止に伴い、県内で初めての村営バス「あおぞら」を運行開始
2002	平成14年8月	● 役場新庁舎完成、業務開始
2003	平成15年7月	● 鯨川村が棚倉町・埴町と合併することの賛否を問う住民投票 (賛成28.95%、反対69.69%。鯨川村と埴町で反対多数となる)
2004	平成16年4月	● まめで達者な村づくり事業開始
2005	平成17年11月	● 村農産物加工・直売所「手・まめ・館」オープン
2006	平成18年1月	● こどもセンター園歌がタケカワユキヒデ氏より寄贈される
2007	平成19年4月	● 「紙おむつ支援事業」、「妊娠健康検査の公費負担」制度開始
2008	平成20年1月	● 「達者の味噌」が福島県ブランド認証産品認定
	平成20年8月	● ゆうきの里づくり研修会にて鯨川村バイオマスビレッジ構想の発表
2009	平成21年3月	● 特老さめがわ・グループホームさめがわ開設
2010	平成22年8月	● 光ファイバー網整備
2011	平成23年1月	● 村学校給食センター第3回地産地消給食等メニューコンテストにて 農林水産省生産局長賞と審査委員特別賞受賞
	平成23年3月	● 村民保養施設「さざり荘」改築(4/29リニューアルオープン)
		● 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)発生、村の震度5弱(4/11にも余震で震度5弱)
2013	平成25年2月	● 鯨川村豊かな土づくりセンター「ゆうきの郷土 ^{さと} 」開所
	平成25年11月	● 村民の店「すまいる」オープン
2019	令和元年5月	● 幼保連携型認定こども園に移行
2022	令和4年3月	● 福島県立修明高等学校鯨川校閉校
2023	令和5年3月	● 国道289号線渡瀬バイパス開通
	令和5年11月	● 学校給食無償化開始

データで見る鯨川村

Samegawa Village in Data

世帯数や人口の移り変わり、子どもの数、産業ごとに取り組んでいる人数など、鯨川村の姿を表すさまざまなデータを集めました。



人口

ゆるやかに人口が減り、令和に入って以後は3,000人前後に。

● 世帯数及び人口の推移

(各年10月1日現在)

区分 年次	世帯数	人口			1世帯当たり	人口密度 (1km ²)	備考
		総数	男	女			
昭和55年	1,127 世帯	5,537 人	2,738 人	2,799 人	4.9 人	42.2 人	国勢調査
60	1,157	5,423	2,662	2,761	4.7	41.3	〃
平成2年	1,112	5,219	2,558	2,661	4.7	39.7	〃
7	1,107	4,957	2,437	2,520	4.5	37.8	〃
12	1,092	4,602	2,271	2,331	4.2	35	〃
17	1,108	4,452	2,182	2,270	4.0	33.9	〃
22	1,161	4,174	2,060	2,114	3.6	31.8	〃
令和2年	1,080	3,245	1,646	1,599	3.0	24.7	〃
3	1,001	2,964	1,492	1,472	3.0	22.6	現住人口調査
4	1,076	3,121	1,579	1,542	2.9	23.8	〃
5	1,070	3,033	1,535	1,498	2.8	23	〃

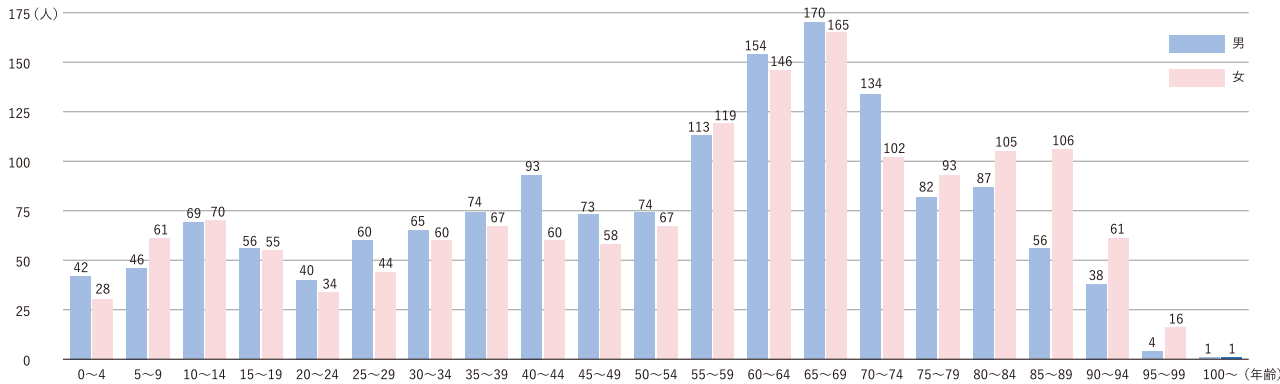
(資料:住民基本台帳)

● 人口動態

区分 年次	自然増減			社会増減			増減
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
昭和55年	91	57	34	161	321	△ 160	△ 126
60	69	52	17	160	199	△ 39	△ 22
平成2年	42	62	△ 20	150	183	△ 33	△ 53
7	45	46	△ 1	109	175	△ 66	△ 67
12	39	47	△ 8	101	147	△ 46	△ 54
17	25	47	△ 22	106	193	△ 87	△ 109
22	14	61	△ 47	47	94	△ 47	△ 94
令和2年	14	59	△ 45	32	81	△ 49	△ 94
3	9	65	△ 56	31	75	△ 44	△ 100
4	10	69	△ 59	37	65	△ 28	△ 87
5	10	57	△ 47	36	59	△ 23	△ 70

(資料:住民基本台帳)

● 年齢5歳別人口構成



(資料:令和2年国勢調査)



自然

東北最南端部ながら阿武隈山系にあり、平均気温は11℃程度。

● 気象

区分 年次	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間
	平均	最高(極)	最低(極)	総量	日最大	起日	
平成27年	11.0	34.6	-10.1	985.5	128.5	7/16	1,392時間/年
28	11.2	33.1	-10.4	1,331.0	180.5	8/17	1,388時間/年
29	10.4	33.6	-10.7	1,042.5	84.0	10/22	1,335時間/年
30	11.3	34.6	-14.1	976.0	72.5	8/28	1,425時間/年
令和元年	11.2	35.4	-9.8	1,456.5	257.5	10/12	2,043時間/年
2	11.3	35.8	-10.0	915.5	72.5	1/29	2,072時間/年
3	11.0	34.0	-12.0	1,436.5	58.0	7/28	1,161時間/年
4	11.0	34.5	-10.6	1,105.5	66.5	9/24	機器不調のためデータ無し
5	13.6	40.0	-11.8	1,003.0	97.0	9/4	機器不調のためデータ無し

(資料:農林商工課)



教育

こどもセンターと小中学校で、約230人の子どもたちが学ぶ。

● 学校別学級数と児童生徒数の推移

(各年5月1日現在)

区分 学校名	令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年	
	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数
鯨川小学校	8	153	8	148	8	138	8	127	8	109
鯨川中学校	5	79	4	72	4	81	5	80	5	77

(資料:学校基本調査)

● 幼稚園・小・中学校の現況

(令和5年5月1日現在)

園・学校名	学級数	園児・児童・生徒数			教員数	職員数	教員1人当たり 園児・児童・生徒数
		男	女	計			
こどもセンター	4	31	20	51	6	4	8.5
鯨川小学校	8	50	59	109	12	1	9.1
鯨川中学校	5	33	44	77	12	1	6.4

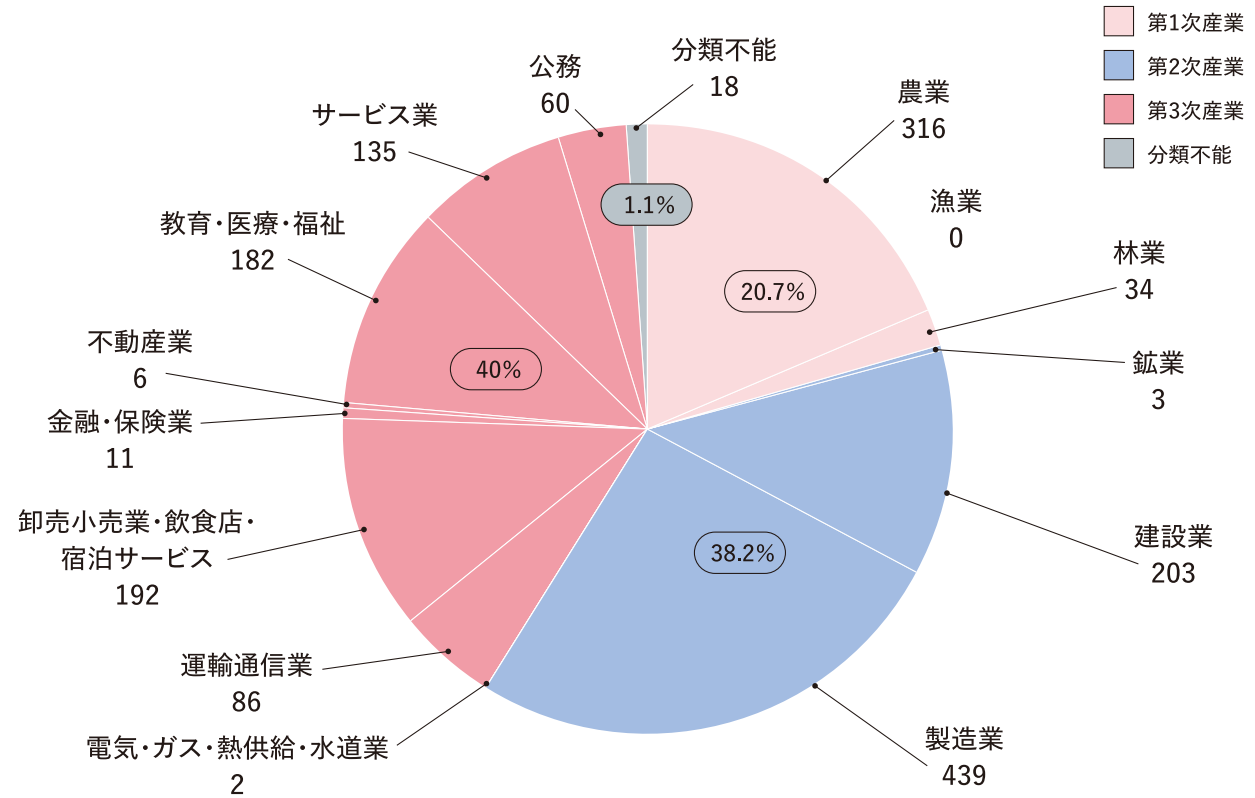
(資料:学校基本調査)

産業

第1～2次産業の割合が減っていく半面、第3次産業は安定。

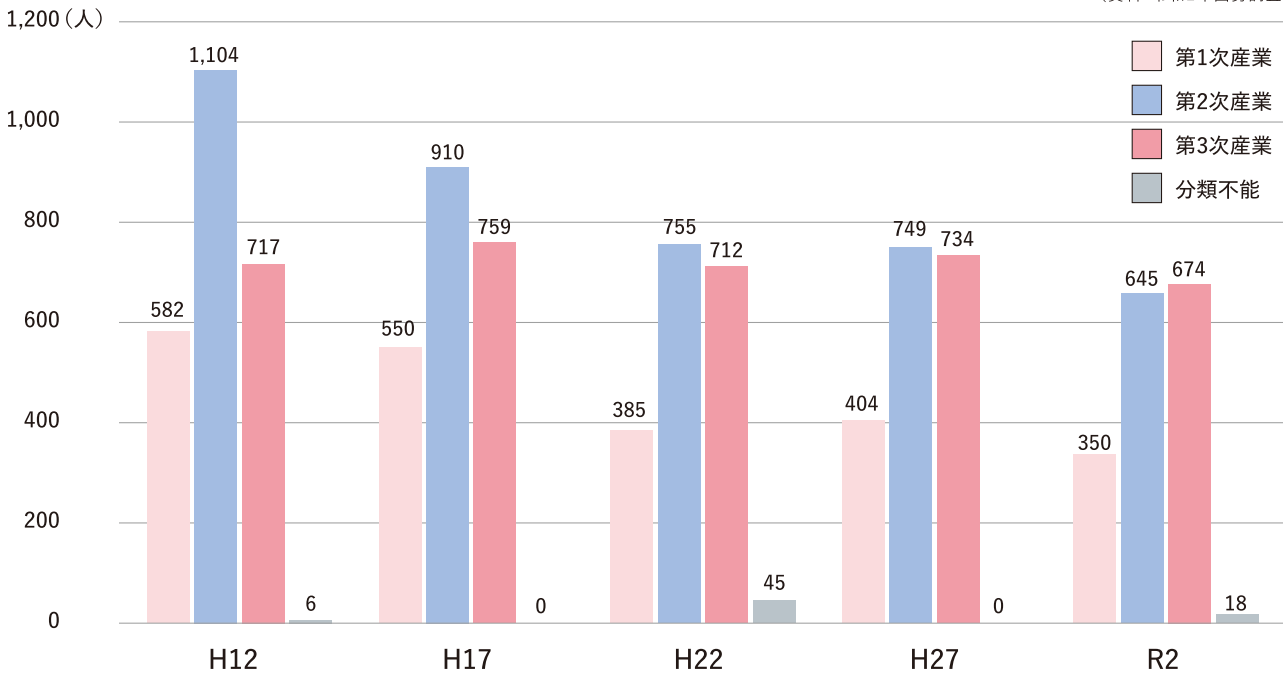
● 産業別就業人口の比率

(資料: 令和2年国勢調査)



● 産業別就業人口の推移

(資料: 令和2年国勢調査)



● 農家戸数

区分 年次	総戸数	農家戸数	農家率	専業農家		第1種兼業農家		第2種兼業農家	
				戸数	率	戸数	率	戸数	率
昭和55年	1,127戸	872戸	77.4%	58戸	6.7%	401戸	46.0%	413戸	47.3%
60	1,157	843	72.9	62	7.4	217	25.7	564	66.9
平成2年	1,112	815	73.3	44	5.4	154	18.9	617	75.8
7	1,107	778	70.3	37	4.8	110	14.1	631	81.1
12	1,093	683	62.4	61	8.9	56	8.1	566	81.4
17	1,110	621	55.9	69	11.1	43	6.9	509	82.0
令和2年	1,006	352	35.0	39	11.1	72	20.5	241	68.5

(資料: 農業センサス)

● 経営規模別農家数

(単位: 戸)

区分 年次	農家数	経営耕地区分						
		0.5ha未満	0.5～1.0	1.0～1.5	1.5～2.0	2.0～2.5	2.5～3.0	3.0ha以上
昭和55年	872	101	215	259	175	63	26	33
60	843	107	211	241	153	63	33	35
平成2年	815	116	230	246	144	48	17	14
7	778	137	256	231	92	37	12	13
12	753	134	264	214	82	27	14	18
17	621	65	230	183	70	34	18	21
令和2年	357	44	116	85	47	30		21

(資料: 農業センサス)

● 村の工業

区分 年次	事業所数	従業者数	製造品出荷額
平成25年	9カ所	255人	396,017万円
26	9	259	416,482
28	10	217	317,917
29	9	245	418,793
30	8	233	392,572
令和元年	8	240	372,246
2	8	178	364,741

(資料: 経済センサス)

● 村の商業

区分 年次	商店数				従業者数	商品販売額
	総数	卸売	小売	飲食店		
平成3年	73店	2店	71店	－店	179人	202,596万円
6	68	1	67	－	173	194,718
9	61	1	60	－	154	193,836
19	51	3	48	－	127	93,169
28	34	－	32	2	95	65,238
令和3年	37	2	29	6	112	174,500

(資料: 経済センサス)